

市川学園山岳部報 8 その1

2004/06/05

お膳じゃないけど御前山

荒川恭平

4月15日、大会で壮絶なバトルが繰り広げられる東京都の奥多摩に位置する御前山を

登る。僕は眠い目をこすりながら朝早く電車の乗った。あらかじめ持ってきたCDウォークマンを聴いててもついコックリといってしまう。同じ東西線を利用する菊池先輩と原川先輩に電車で合流した。僕と同じく、ザックという大きな荷物を背負った人にやっと会えた。正直、ホツとする。

東京駅に着き、弁当を買わせてもらった後、電車の中でまもなく部長に就任という同級生の國枝君に合流した。またザックを背負った人と会えた。その後、梶原先輩、中二メンバーの面々、細谷先生そして庵原先生と合流した。ここまでくると恐いものなしである。立川駅にて乗り換えをした後、一向は奥多摩へ向かった...

東京駅から約2時間、物々しく広がる都会から田舎の物静かな町並みが電車の外に広がった。悪くない風景である。山間にひっそりと構える奥多摩駅から僕たちは御前山へ歩いた。今後の方針について國枝君と話し合いながらのはずだったが、いつも通りにくだらない話で盛り上がった。やれやれ...。途中から高校生と中学生は別行動をとった。9時30分、高校生が大ダワへ出発。その20分後中学生が高校生の後を着いていくという予定だ。大ダワまで、約5^{km}のアスファルトはかなり長くその上坂道だったので疲労もたまるし、腹も減る。そんなことを考えていたら、朝に買った弁当を思い出した。賞味期限が...、賞味期限は大丈夫かな？大ダワに着き休憩をとった時恐る恐る弁当を見たら、何と！10時30分の賞味期限。登頂は12時30分を過ぎるという...。ショックだ。今食べるわけにもいかないし。2時間後、山頂で食中毒になり顔が真っ青になった自分が救助隊用のヘリコプターに乗り、下山する姿を想像した。勘弁してよと呟いた。

気を取り戻し、御前山の頂上を目指し林道を歩き始めた。それは急な坂道であり今までにないきつい林道だった。ひたすら歩いた。パーティー内の口数が減っていく。急な上に石の多い不安定な道だったので、幾度となく足がつる。歩いても歩いても頂上に着かない。のどが渇いた。途中で鞆口山とクロノ尾山の二つの地点で休憩を取り少しは疲労を取り除くことができたものの、少し歩けばまた疲れが増してくる。気が遠くなりながらもあきらめずに登っていった。

大ダワを出て約1時間後、林道の切れ目が見えてきた。その先はゴール。頂上に着くと僕は疲れきった体を休ませた。頂上の景色はそこまで良くはなかったけど、立派な達成感を味わった。しばらくして中学生も到着したが、疲れをあまり感じさせない表情だ。僕も中学生の時はあんな感じだったのだろうか...。さてお待ちかねの昼食の時間がやって参りました。強烈な刺激臭と程よい酸味が期待される逸品物だ。のはずだったが本来の味を保った弁当であり最高に美味しかった。

その後は行きとは裏腹に、楽しく会話しながら下山した。そしてやっと奥多摩駅に着き各自解散になった。登山の大会、楽をしては通れない。

高校総体千葉県大会 ~ in 御前山 ~

前部長 菊地 (高3)

準備段階 ~ 大会までの道のり ~

登山に大会があるということは高1の秋の南会津の薪割り時に初めて顧問の北川先生から聞いた。高校総体や国体の1競技になってるなど知らなかった。この時部員2名、「俺らには関係ないなあ」と聞き流して「ふう〜ん」という感じだった。しかし、1年後の秋、休部勧告を克服し、山岳部の中学生受け入れなどで部員は高校生だけでも6名になっていた。そして今年に入って大会に興味が少しずつわいてきた。最後になるからやってみようかと高校生部員に持ちかけたら「やってみよう」というのでさっそく動き出した。しかし、大会には約20年(厳密に言うと23年!?)エントリーしていなくて学校からでは要項が手に入らない。そのため要項を手に入れるべく、津田沼ヨシキスポーツを訪ねた。昨年高校総体千葉県大会の要項を借り、大会委員長を務める仲真先生に北川先生が連絡を取ってくれた。なんと仲真先生は市川東高の先生!うちの学校から徒歩15分くらいの近さだった。さっそく直接会って話をすることに決まった。それまでに1回会場となる御前山を知ってた方がいいということで4月15日に中学生も混ぜて御前山へ行った(詳しくは別稿参照)。それから4月19日、市川東高へと向かった。この日は記念すべき市川学園山岳部の外交デビューとなった。そこで仲真先生、市川東高ワンダーフォーゲル部(東高には山岳部はないらしい)の人たちと対面し、向こうの部長さんの説明を聞いた。また、いろいろと参考資料も提供してくれた。その後、仲真先生からロープワークなどの技術面の指導を受けた。最後に各メンバーの紹介と部報交換をした。おかげで大会のだいたい様子がかめた。20年前よりもだいぶ制度が変わったということでホント初出場と云っていい。その翌週も合同練習で、テントの設営指導とロープワーク指導を受けて参考になった。テントの設営は知らなかったことが多く、たいへん勉強になった。その後は俺らだけで練習して(ちょっとだけだったが...)大会前日を迎えた。

5月6日(木)・・・直前ミーティング・買出し

ゴールデンウィークが終わってなんともだるいこの日に放課後集まって、最終確認のミーティング。顧問の北川先生は・・・いない。登山行動中は部員だけの行動だからまあいいか。代わりに庵原先生が来てくれた。目標と作戦を発表し、とにかく「登山中に追い抜かれない」ことを意識した。出発順はA隊の最後。これが吉と出るか凶と出るか・・・。そして、ミーティングの終了後、テント設営の最終確認をして終えた。買出しは各自分担のを買っておくことに。俺と原川(高3)、クニカン(高2)で予備校帰りに買って帰宅した。高3になってから勉強と部活の両立がだいぶつらくなった。だから予定よりも1ヶ月程早く引退を決意したのだが。ただし登山だけは引退後1回だけ参加予定。この大会が部長としては最後の山行となる。だから頑張ると同時に楽しみたいと思った。家に帰ってからパッキングをした。家の体重計で荷物の重さを計る。19.0kgとちょっと重め?4人で60kg以上の規定だから少し余裕あったほうがいいからこれぐらいでもいいかも。寝ようかなというところにメールが。クニカンから「EPIヘッド(調理用のガスコンロ)知りませんか?ないんですけど・・・」。「・・・朝ソッコで取って来い」と返信。この時もう日付変わって夜中の1時・・・ちょっと不安になりながらも就寝。

5月7日(金)・・・大会初日(生活技術・知識審査)

7:00起床。今日は公欠だ!校内模試が見事なまでに重なった。クニカンからメール「始発で学校行ってとって来ました」。ご苦労様です。他のメンバーは東西線で予定通り集まって東京駅へ。昼ごはんを買っていたら発車ギリギリ!なんとか座れて間に合った。車内はザックの高校生が多い。間

市川学園山岳部

市川市本北方2-38-1

047-339-2681

市川学園山岳部報 8 その2

2004/06/05

違いなく大会参加者だ。一目でわかる。青梅まで1時間半電車で揺られ、乗り換える。「やったー！ガラ空きだ」と乗り込むとザックの他の人たちは乗らない。「え？なんで乗らないの？」と思ったら、乗るべき電車はこの1本後で俺が乗ったのは東京方面行きだった。危なく帰るところだった！恥ずかし。次の電車は4両しかなく、ザックの高校生でにぎわっていた。千葉東高が近くにいた。たしかずっと優勝している学校だ。おそろいのザックが目につく。奥多摩駅には12:30に着いた。そこから歩いて氷川キャンプ場へ。受付は13:00～と言われたので時間まで散歩した。近くでテントを張って直前まで余念のない学校もあった。



13:00からの受付で参加費を払い、ゼッケンや要項を受け取り、ヨシキスポーツから差し入れが各学校に配られた。川原に下りてテントの張る場所を整備してザックを置いた。ゼッケン18番の俺らはC班のエリアに張らねばならない。全体的に傾斜があったが気にしなかった。夏山合宿の時の方が傾斜はすごかったから。

14:00から開会式。整列すると人が多い！右隣には女子のA隊で優勝旗を持っている・・・千葉東だ。優勝旗を見ると最初に「船橋東」とあってあとは全部「千葉東」だった。独走だなぁ。あいさつや注意事項、優勝旗返還、選手宣誓などをやって終了。

15:00からテントの設営の審査が始まる。B隊は俺たちA隊の審査を見物するためギャラリーがにぎやか。いきなり笛がなって始まったので混乱したが、とりあえず10分間の制限時間内にテントを建て、固定することはできた。しかし、出入口のチャック閉め忘れ、ペグ袋の出っぱなしなどで減点されることはわかった。てか審査員のチェックが厳しい。30分以上かけてとても念入りに調べられた。そんななか天気図審査の時間になり、クニカンが受けに行った。残った俺ら3人は装備検査を受ける。今回の項目はツェルト・防風板・三角巾・軍手・ヘッドランプの5点。ヘッドランプは電池の絶縁や予備電池・電球まで検査が入った。しかし防風板は「側板が短い」と口頭注意を受けた。

それが終わると炊事審査、今日の夕飯は「マーボー丼」だ。その途中でクニカンが帰ってきた。天気図は「10点満点で5点くらい行ったかな」と言っていた。(結果は3点でした～！おいおい頼むよ！)その後は俺の知識審査。行こうとすると市川東の部長と会って一緒に受けに行った。17:00にパーベキュー場の小さなイスでテスト開始。ぶっちゃけ20分もいらぬ。高山植物？恋の花？ハイ知らない～。てか20分ずっと茫然自失だった学校がちらほら・・・。わからないのが中盤あったが、最初は常識的な問題で助かった。20点満点で10点近く行ったかなと思う。(結果は11点で平均点ギリギリ越えた！)市川東の部長もそんな感じだと言っていた。戻ると夕飯ができていた。今回は原川と荒川(高2)がメインで炊事。マーボーにはとろみもあっておいしく

食べられた。

18:00になると今度はリーダー集合で出かける。のんびりご飯も食べられない。でも市川東と行動を共にすることが多いので、話しながら楽しい。明日の競技の説明と注意であった。戻って部員に伝達。その後は早めにシユラフを出して寝る用意をした。そしてみんなでキャンプ場を徘徊して遊んだ。20:00消灯で就寝。



5月8日(土)・・・大会2日目(行動審査)

3:55、アラームで目覚める。満身に睡眠できた人はいない。途中で起きたり、寝付けなかったりしたからだ。朝は忙しい。さっそくご飯を炊き、その間にテントをたたんでパッキングする。朝飯はご飯・味噌汁・缶詰である。時間がないからしょうがない。市川東はパンを食べたようだ。缶詰はちょっと開けすぎた。俺が残飯処理班として(班と言っても俺1人・・・)缶詰4つ分くらい食って、ちょっと苦しくなった。

5:30からザックの計量が駐車場で始まった。計ると俺・・・19.8kg、原川・・・14.5kg、クニカン・・・14.5kg、荒川・・・15.8kgで合計64.6kgで余裕で基準をクリアした。てか俺重すぎ！テント一式積むとやはり違うな。テントは水分を含んで翌朝重くなる・・・。現に家出る時より重くなってるし！でも去年の夏山合宿より軽いから平気だ。パッキングのコツもなんとなくつかんで重さを感じなくなった。やっぱ慣れだなぁこの部活。計量が終わったので準備運動して、スタート地点まで40分かけてのんびりめに歩いていったが、そこまですでに疲れる。アスファルトのクネクネした長～い上りは歩く気が失せる。天気は曇っているが風がなくて汗が出る。周りの学校も「疲れた～」とか言っていた。スタート地点には6:45到着。

スタートまで時間があるので市川東としゃべる。部長は腹が痛いらしいが頑張るようだ。7:00に1番目の千葉東が出発。そこから1分おきに出発する。千葉東は気合いが違う。円陣組んで叫ぶ！空気が一瞬変わった。やはり見ていると走ってくる学校が多い。市川東は9番目なので見送る。そして俺らもスタンバイ、18番目でA隊1番最後の出発。7:17、標高500m地点のスタートを切った。俺らは最初早歩き。後ろはオープンA隊だから速くはないだろうと思ってたら数分後に姿が後ろに見えたので少し走って向こうの視界に入らないように気をつけた。進んでいくとゆっくり登る1つのパ-ティーが！パーティーは17番かと思ったら13番のゼッケン、八千代高だ。それを追い抜き、なおも早歩き。しかし、そこから前がない。それもそのはず俺らの前4つの学校は全て関東大会に進出を決めた学校。追いつけるはずがない。沢のところで観察役の北川先生に会う。体調を気にしてくれたがこの時は皆快調だった。ここから180度カーブが連続する。そしてガスが出て見通しが悪い。景色は真っ白だ。さらに1つパ-ティーを抜くと最初の読図ポイント。

市川学園山岳部報 8 その3

2004/06/05

読図は俺がやる。時間もないのででいたいのでやった。方角と標高のみで位置を地図に記す。その読図ポイントで市川東が休んでいた。軽くあいさつして先を急ぐ。この辺になってから人が多くなった。所々走ったりしながら大ダワに着いたのは8:12、スタートから55分で来た。4月の模擬山行より9分も速い！ここで10分休憩。水分補給をしてここからはじまる山道に備える。

大ダワを出ると上ってすぐ急降下。その後上がり続ける。急降下のところでは位置エネルギーをつかって走りぬけ上りを駆け上がる。しかしあまり急ぐと読図ポイントを見落とすかもしれないから気をつける。鞆口山では休憩せず、2つくらいパーティーを追い抜く。「やばい。かなりいいペースだ！」とか思いながらまた、下って上ってを繰り返す。クニカンや原川の足がつったりしたがまだいける。クロノヲ山では5分休憩。ここで2つくらい抜かれ、元通り。出発すると下りでまた急登。ここらで原川の足が両方ともつって倒れてしまった。よく伸ばしてほぐすように指示するが辛そう。1280m地点で観察の先生に「荷物を他のメンバーに振り分けた方がいい」というが場所が狭くて他の学校の妨害になるので様子見だ。ペースは急激に落ちたが足が今は大事だ。無理して肉離れとか起こればリタイヤになってしまう。遅くても完歩したい。非常にゆっくりだが確実に前へ進み、山頂が見えてきた。しかし山頂手前がこれまた長い上り。「頑張れ！あと少し！あと5分！」と声を出す。9:50、山頂に到着。タイムは2時間33分53秒だった。山頂でさらに計量で俺・・・19.2kg、原川・・・14.0kg、クニカン・・・15.0kg、荒川・・・15.8kgとスタートとほとんど変わらなかった。



山頂について下山まで食事を摂って栄養補給。とにかく疲れた。足が痛い。でも元気ではあった。原川も「体力はあったけど足だけつた」と言っていた。これからの課題として「ストレッチ」が挙げられた。しかし、じっとしていると寒い。ガスって景色は真っ白。10数分後、市川東が到着。「お疲れ～」とお互い到着を喜んだ。北川先生も観察を終えて山頂に到着。一緒に食事を摂った。

11:30に山頂を市川東に続いて出発し下山。鞆口山までノンストップで戻る。もう普通の山行で癖になってしまったのか下りは速い。原川はトイレに急ぐため、1人大ダワへ先行。ここで休憩していると天気が持ち直して晴れ間が出てきた。大ダワで原川と合流して大ダワの下山チェックを受けると仲真先生が「近道使っていいよ」というのでアスファルトを避ける山道を使ってショートカット。下りは競技じゃないしね。ひたすら下るとアスファルトに出る。そこからは上りと同じルートで下っていく。てか足が痛い。車にとっては楽な道でも人間にとっては生き地獄。しかし、早く休みたいという気持ちが高まりかなり快調なペースで下り、14:00にはキャンプ場に戻った。しかし、高2コンビが遅れたので下山報告ができず待たされた。次期を担う人たちがこんなタラタラ動いてるのはいけませんなあ。やっと高2が来たところ

で下山報告をしてテントを張る。

テントを張ったあとは何もすることがない。「今日帰っても・・・」と思う。でも川とか新緑の木々をぼんやり眺めたりしてるとなんか癒された。「終わったなあ・・・」としみじみした気持ちになった。これが1年半の部長時代最後の山行だったのかと思うとなんかいろんな意味でも寂しい。やっぱり一番楽しいのは中学生も混ざってうちの部活だけでワイワイする山行だ。なんか物足りない。しばらく休んでいると市川東も帰って来た。市川東はテントを張る気力を失ってグッタリしていた。その後川原で裸足になって川に浸かっていたら市川東部長がやってきた。市川東B隊の人も来て、原川と4人で高3同士お互い部活や学校の話を話し込んだ。お互いこれをもって引退、「この部活をやってくのは大変だったねえ」と話した。どの運動部とも違った特殊かつマイナーな部活ゆえに苦勞が多いようだ。何が大変って常に人数不足の危機があること。幸いにして今はとても部員が多いけれど。今後しばらくは部員数2ケタで推移しそう。こうして話していると急に今までの部活の思い出がフラッシュバックした。私立と公立、山岳とワンゲル、大会経験と未経験・・・対照的な2つの部活だが同じような苦勞をしてきたことを知ってより仲良くなった。そして彼らは今夜の交流会の時に俺らのテントに遊びに来ることになった。

17:00から夕食の準備。今日はカレーライス(レトルト)だ。今回ご飯炊きは全てうまくいき、おいしい食事ができたのはとてもよかった。急いで食べたあと、リーダー集合があって終わると交流会タイム。交流会といっても1つにまとまって何かするのではなく、好き勝手にテントめぐりして交流するだけである。市川東御一行様が俺らのテントにやってきた。5人用テントに9人・・・暑い！悲しいかな男ばかりでテント内大変暑くなっております。しかし、トランプをして盛り上がった。途中「計画書交換」という山岳ならではの交流があるようでお互いの山行計画書を交換するらしい。うちらはそんなことは知らず、計画書の予備は1部しかない。訪ねて来てくれた佐原高校と、もちろん市川東と交換した。今度から計画書も顧問任せではなくておもしろく部員たちが自作するようにしていったらさらに楽しめそう。さて、トランプ大会では神経衰弱を狭いテントの中でやるなど最後まで楽しかった。最後に勝った原川には市川東より提供のスパゲッティ(麺のみ、未開封)が贈られた。存分に楽しみ21:00消灯。疲れた様子の原川とクニカンはすぐに寝てしまったが俺と荒川はすぐに寝付けなかった。



5月9日(日)・・・大会最終日(表彰・閉会式)

3:30、起床。どこの高校だか一晩中騒いでいたので目が覚めた。はっきり言って他人のことを考えられない人間がここにいるのは場違いである。原川は油污れをそのまま炊事場で洗ってる人間を見たようだ。社会性も審査項目に入れるべきだろう。「ここは東京だから地元千葉と関係ない」「勝てばいい」「速ければいい」などという部活ではない(もち

市川学園山岳部

市川市本北方2-38-1

047-339-2681

市川学園山岳部報 8 その4

2004/06/05

ろん全ての部活に言えると思うが)。安全で楽しい登山も結構だが「周囲の人に配慮する」「自然を大切にする」という根本的な部分が欠落してるようにこの大会では思った。もちろんごく一部の学校なのだろうけど。そこがこの大会から見えるマイナス点だろうか。プラス点では、俺らの改善すべき点、まだ磨く必要のある点をはっきりと示されたことだ。これから次期部長の時代になるがこの大会で吸収したい部分をしっかり普段の山行で取り入れてくようにして欲しい。そうすればもっといい部活になる・・・そんなことをまだ暗い川原で思いながらみんながおきる4:50を待った。

朝食はジフィーズの「わかめご飯」。お湯を入れて10分で完成。意外とおいしかった。その後パッキングしたあと、閉会式が始まった。成績発表のあと表彰があって、講評の後説明などがあって、結果をまとめたプリントが配られ解散となった。プリントを見ると結果は・・・10位!(18校中)20年ぶりの出場、短い練習期間としては上々の成績ではないだろうか。8位以上なら関東大会だった。惜しい気もする

が、関東大会は11月・・・高3にとっては助かった(?)。

閉会式が終わると電車が混むので急いで帰路へ。前もって北川先生に切符買ってきてもらって正解だった。帰りの電車では疲れから寝る人が多かった。無事10:30帰宅。

これで部長としての山行は終了した。少しだけ肩の荷が下りたって感じ?けどまだまだ後輩は心配なな。特に天気図で10点満点で3点だった次期部長が重労働に耐えられるかな?とか中2はみんな協力して活動できるかな?とか不安な点は多いのであります・・・。取り越し苦労ならいいんだけど。なんて言っていると話が切れないので省略!

とにかく、今回の大会は山岳部にとって新たな経験となり、これを活かして頑張ってください!ということです!お疲れ様でした!

最後に丁寧なご指導を下さった仲真先生、市川東高ワンダフォーゲル部の皆さんに深くお礼を申し上げる次第であります。楽しい山行をありがとう!

